

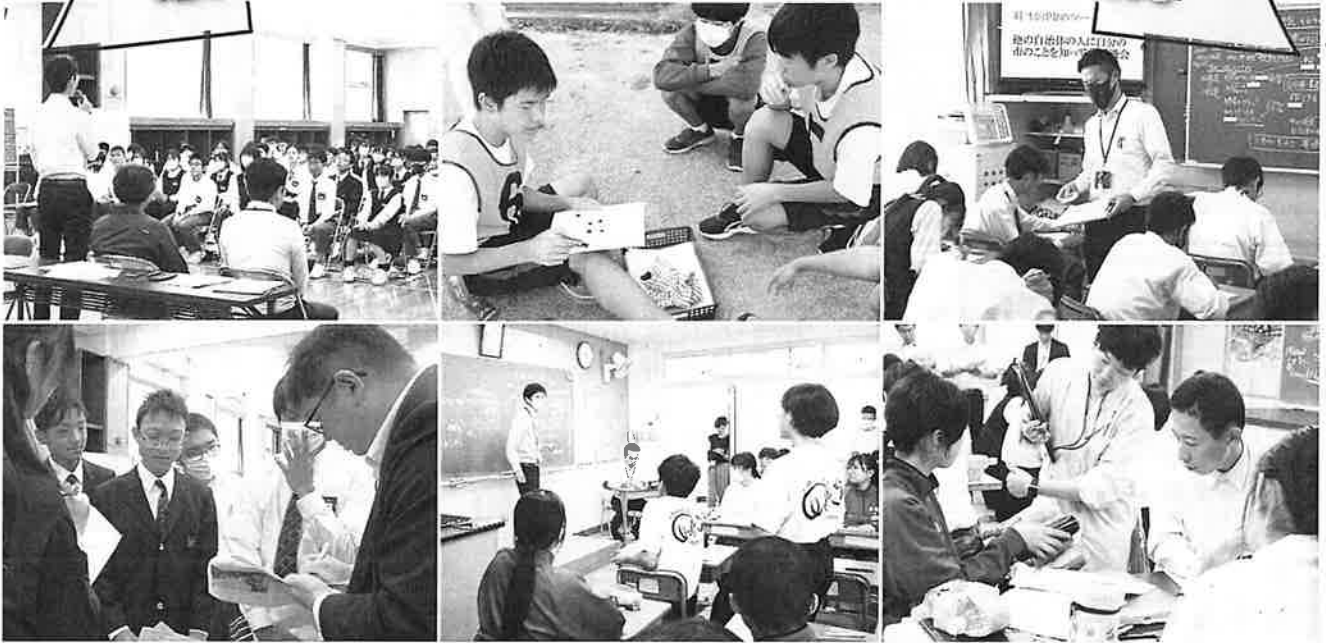
学校だより

第 48 号

豊橋市立豊城中学校

〒440-0801
 豊橋市今橋町2番地の1
 TEL 0532-54-1275
 令和6年2月20日発行
 E-mail hojo-j@toyohashi.ed.jp

自分の考えを再構築し、 最適な学びを自己決定できる生徒の育成



親の小言と教師

豊城中学校校長 河合 成始

「履き物を脱いだら揃えないさい」、「席を離れるときは椅子を戻さない」、「お茶碗を持って食べなさい」など、親の小言には、実社会でよりよく生きていくための日常生活におけるあたりまえが溶け込んでいます。私たちは数々の道理を、そこから学んできました。

学校教育の中核は「おもしろい授業」であり、「笑い」は脳に好影響をもたらします。「時間で二回も笑いのない授業をした教師はただちに逮捕する」、教育学者のユーモアに富んだ言を引き、生徒が楽しい (interesting) と体感できる授業を追究し続けていきます。

学校生活の中で生きる力の礎を為すものとして、時間の意識、挨拶、朝のストレッチや読書、清掃などがあげられます。誰もが実行できることをきちんと行うことで、人としてのしなやかな土台が作られていきます。

私たち教師は、自ら考え判断し行動する生徒の伴走者です。また、うれしいときは笑い、悲しいときには涙し、悔しいときには歯を食いしばる、そういう大人のロールモデルでもありたいと思います。

寺 せ

前期生徒会長 櫻井 美友

いつもと何一つ変わらない日々の中で、少しずつ卒業が近づいています。一瞬だった中学校生活、楽しいことばかりではありませんでした。勉強でも、部活動でも、生徒会活動でも、たくさんの感情が生まれ、たくさんのことを学びました。私がここまで努力してこられたのは、大切だと思える友人、先輩、後輩、先生、そして家族に恵まれていたことが大きいと実感しています。特に一緒に泣いて、一緒に笑った時間の多い部活動の仲間には本当に感謝しかありません。

ん。これから先、これまで以上に悩むこと、辛いこと、楽しいこと、嬉しいことに出会っていくだろうと思います。中学校での生活で学んだことを生かして精いっぱい向き合っていきたいです。

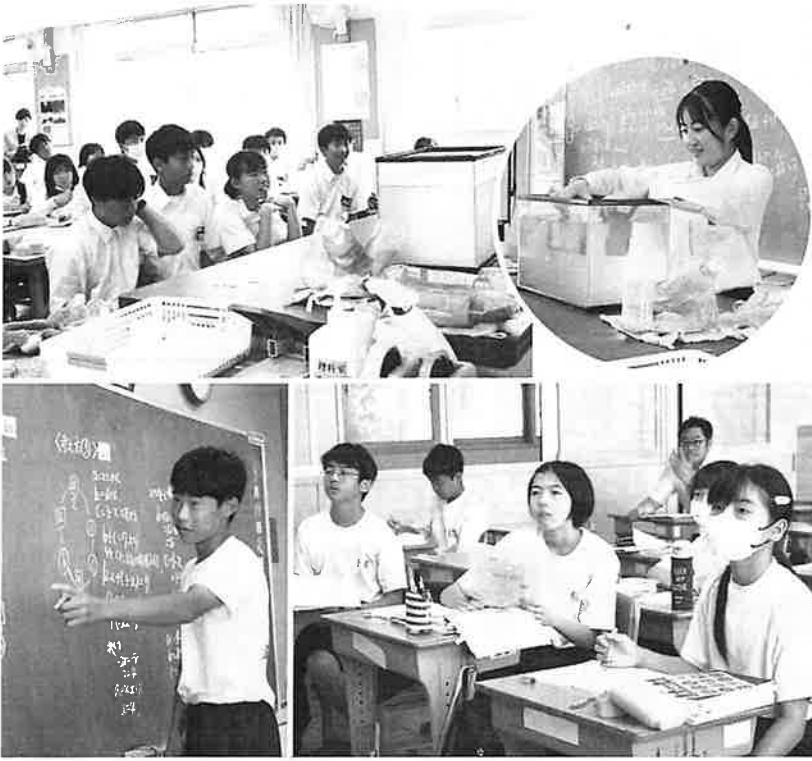
私自身で進んできた道。一つでも違えば出会わなかった人や体験がたくさんあったと思います。だからこそ、今の私にしかない、私だけの幸せだと感じます。人生でたった一度きりの中学校生活。私だけの、かけがえのない、大切な宝物です。

ん。これから先、これまで以上に悩むこと、辛いこと、楽しいこと、嬉しいことに出会っていくだろうと思います。中学校での生活で学んだことを生かして精いっぱい向き合っていきたいです。

研究について



今年度、「自らの学びを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成」をテーマに研究を行っています。これからの未来を生きる子どもたちには、予期せぬ事態に対しても、多くの情報から必要だと考えられるものを自分で選択し、何をすべきかを自分で決定することが求められます。しかし、自分の考えだけでは、独りよがりになりかねません。そこで必要となるのが、他者との関わりです。仲間や教師と議論したり、文献や体験から得た学びをもとに考えたりするなど、世界へひとつもの「こと」と関わり、改めて自分の考えを見つめ直すことで、最適な考えを導き出すことができるのです。そのために、授業や行事を通して、自己決定や関わり合いを大切に、教育活動を展開していきます。



自らの学びを自己決定するために

生徒が自分の学びを客観的に捉え、自分に必要な学習を決めていけることを目指しています。そのためには、「学びのサイクル」が大切であると考えています。毎日の授業↓単元テスト↓学びの修正↓毎日の授業、この流れを繰り返すことで、学習内容や学び方が「わかる、できる」ようにしていきます。

本年度も、単元テストの実施方法をより生徒が学びやすいように変更しています。また、レビュースーの取り組み方も、間違えた問題を全て直すものから、自分に必要な学習を考えて行うように改善しました。毎年、「学びのサイクル」を改善しながら実施していますが、課題も多くあります。例をあげると、時期によっては単元テストが重なることがあります。そこで、生徒

自身が日頃から計画的に学習を進めたり、教師が適切な支援をしたりする必要ががあります。今後も生徒自身が自分に必要な学習を自分で決めていけるような「学びのサイクル」を探求していきます。*レビュースーとは、生徒が学び直しをするための用紙



話しやすい雰囲気づくりとコミュニケーションスキルを高める活動

後期生徒会活動を振り返って 最大火力で

後期生徒会長 際本 夏子

体育館の改修工事で、録画での選挙から始まった後期の活動。多くの学校行事が前期に行われたこともあり、後期は各自が掲げた公約が達成できるように力を尽くしました。他学年や地域との交流、部室の新しい使い方の提案、朝読書への意識向上、挨拶の活性化など、私たちができる最大限の力を発揮しました。冬休み前に行った挨拶運動では、執行部以外にも多くの生徒の皆さんに参加してもらえました。学校で広がった「挨拶の輪」を今度は豊城校区に広げたいです。

今年度もあと少しです。生徒会スローガン「BLAZE」のように、生徒一人一人が最大火力で輝けるよう執行部として活動していきます。

不審者侵入訓練

今回の訓練は、不審者役をPTA役員3名にご協力いただきました。各フロアに侵入して、訓練の体験を増やして実施しました。不審者に扮した

PTA役員が教室に入ろうとする場面では、体を張って生徒を守ろうとする教師の姿がありました。訓練後の振り返りでは、教師と不審者との距離の置き方、さすまたの有効な使い方、緊急事態を知らせるブザー音の必要性など、不審者側からの視点で提案をいただきました。貴重な意見を生かして、今後の防犯体制の改善につなげていきます。



令和5年度

学校評価について

〈ねらい〉

今後実社会で生きていく生徒にとって、よりよい教育環境を構築するために、保護者、地域の方の協力により学校評価を行う。

〈方法〉

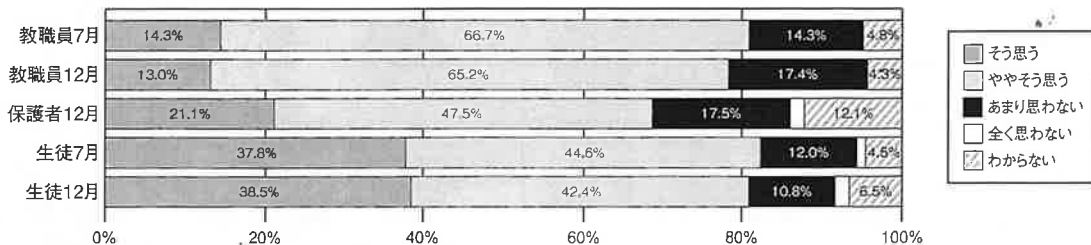
- ①生徒・教職員を対象に年2回、保護者には年1回、同じ項目のアンケートを実施
- ②保護者には年2回、学校行事や学年の活動に関する記述式アンケートを実施
- ③アンケートを受けての教職員による自己評価
- ④「明日の豊城を創る会」による学校関係者評価

アンケート実施時期 【7月】7月10日～7月14日【12月】12月5日～12月8日

アンケート結果より

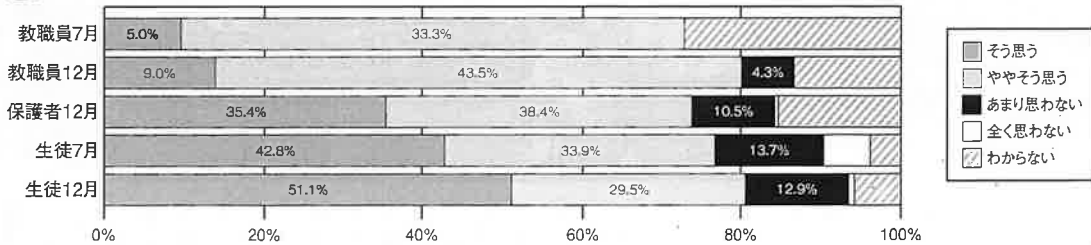
※グラフの上の質問は生徒向けアンケートの表現です。
※保護者は選択肢の「わからない」を「判断できない」として回答しています。

Q2 あなたは、人前や授業で発表するとき、発表の資料などを作成するときに、聞く人や見る人にわかりやすく伝えられるように工夫していると思いますか。



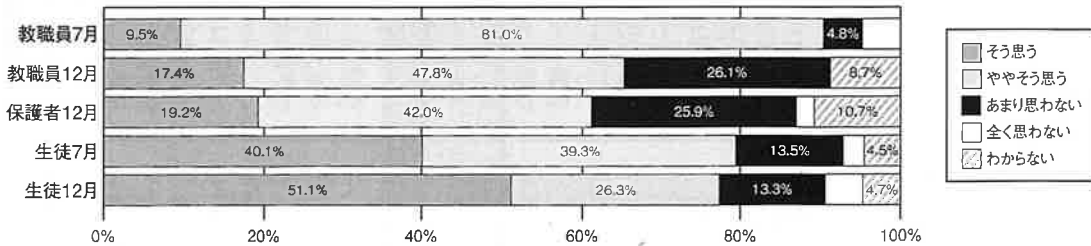
12月の調査でも8割を超える生徒が、聞く人にわかりやすく伝えることを意識して発表などを行っています。資料のデータや画像などをよりよいものにしたり、資料に表記されていない細かなことを補足したりするなど、更にわかりやすく伝えられるようにアドバイスをしていきます。

Q4 少人数指導(数学や英語)の授業は、質問しやすく、内容を理解しやすいと思いますか。



生徒の多くが、質問しやすい、理解しやすいと回答しており、少人数指導が効果をあげていることがわかります。今後も、目的別コース選択制など生徒のニーズや実態に合わせた授業を行っていきます。

Q14 あなたは物事に興味や関心を抱き、今年の4月頃と比べて「もう少し深く知りたい」という気持ちが強くなってきていると思いますか。



教職員は、生徒が興味や関心を持ち、生徒自らが課題を追究できるような授業を旨として研究を推進しています。課題に対して自分が何をすればよいのかを自己決定し、個人追究をしたり仲間と関わったりすることで更に知りたいという思いをもてるようにしていきます。

〈アンケート結果について〉

本年度の学校評価について、アンケート結果をまとめ、ホームページに掲載いたしました。ぜひご覧ください。

学校ホームページ QRコード



学年だより

1年 ACTIVE

期待と不安の中で迎えた入学式から一年がとうとう迎えています。「ACTIVE」を学年目標に掲げ、新たなことに挑戦しようとする気持ちを大切にしてきました。学習面での成長、新たな友達との出会い、学年・学校行事の実行委員としての主体的な関わりなど、自分の可能性を伸ばしたり、得意を生かしたりして学校生活を充実させてきました。

2年 Leaves

「来年には木に花を咲かせたい。今年はその春を迎えるための準備の年として、生活面でも勉強面でも、風に飛ばされたい葉っぱではない」とそんな思いを込めて学年目標を決めた四月から、もうすぐ一年がとうとう迎えます。この一年間、さまざまな経験を通して、「一枚枚が強く丈夫な葉」「ブレない個」となり、「花を咲かせる前の大きな大木」「よい集団」に成長してきました。

一人で勝負した職場体験学習、事業所への事前訪問、打合せの電話から、体験当日まで、言葉づかいやマナー、身なりや態度など、社会

野外教育活動では、班の中で一人一役を担って班活動を充実させたり、友達と協力したりして自分たちで考えながら生活しました。キャンプファイヤーでは、係の生徒たちが趣向を凝らしたレクリエーションを企画しました。人間関係の幅を広げたり、友達との新たな面を発見したりする機会になりました。ここで学びを生かして、合唱コンクールではよりよい合唱、聴き手に思いが届く合唱を目指して、生徒たちが知恵を出し合い、互いに励まし合っていました。初めての合唱コンクール、思いを歌声にのせたすばらしいものでした。

四月からは、二年生として、後輩から頼りにされる場面も出てくると思います。中学校生活に慣れた分、更に「ACTIVE」な自分、学級・学年として輝いてほしいと思います。

求められることは何かを考え、実践しました。実際に社会の一員として仕事をする経験を通して、働くことの意義ややりがいや学ぶとともに、仕事には責任が伴うことや、任された責務を果たし続けることの大変さに気づくことができました。事業所の方からも温かい言葉をたくさんいただき、将来に向けて、視野が大きく広がりました。

行事のなかでも特に大きな成長が感じられた合唱コンクール。本番に向けて、昼休みや授業後をつかってクラスで何度も練習する姿が日常になるあの三週間。どのクラスもつづの歌をつくりあげるために必死になり、歌声が日々変化していく様子が感じられました。クラス四十人になった今年。昨年度の合唱をはるかに上回るパワーと表現力に圧倒されました。一人一人の表情、歌声、そして体感。心を動かされました。来年の合唱コンクールもとても楽しみです。

いよいよ三年生に向けての準備がはじまり



ました。花を咲かせる春は目の前です。葉から花へ。「ブレない」はあたりまえ。その一歩先を目指して、力強く花開くよう心から願っています。

3年 Unlimited 輝く未来へ

卒業式の歌を口ずさむようになった今日。懐かしい思い出を振り返ることが増えました。今年の学年目標「Unlimited 輝く未来へ」。まさに輝く未来に向けて、生徒たちははばたこうとしています。

三年間、ときを共にして改めて思うのは、この学年の強みが「仲のよさ」だということです。学校生活では、男女関係なくよく話します。「受験は団体戦」の言葉の通り、学習面においても、高め合おうという前向きな雰囲気があるにありました。どの授業も皆の笑顔があふれ、教師の問いかけにも、真剣に答えたり考えたりしました。

また、今年度も行事に燃えました。しかし、ただがむしやりに勝利に向かうのではなく、三年生として学校をリードする、伝統を次の代に受け継ぐという大きな役割を担い臨みました。文化祭では、楽しい企画で会場を盛り上げました。BLAZEステージのラストは、出演者の呼びかけで学年全員が舞台上がりフィナーレを盛大に飾りました。合唱コンクールでは、三年間の集大成として「全力でがんばることはかっこいい」と、後輩たちへ歌のすばらしさ、團結することの大切さを伝えることができました。また、プロジェクト継の祇園ボランティアには、六十名以上が参加し、地域のために一生懸命

命働きました。「経験は力なり」。この三年間で経験したことは、これからの人生に生かされます。仲間と歌った歌は、人生の応援歌になるでしょう。

コロナ禍を前向きに乗り越えてきた生徒たちは、柔軟に困難に立ち向かう力がついています。そして、いつでも、人としての思いやり、優しさであふれていました。豊城中学校で学んだ三年間を大切にしたい、今後も力強く歩んでほしいと願っています。共に過ごした年月は、わたしたち教師にとっても宝物となりました。生徒たちのこれからが光り輝きますように...

